

耕畜連携

堆肥を用いた米生産

あさひな農業協同組合営農販売部 畜産課長 吉木 仁一

1. はじめに

現在当JAあさひなでは、たい肥センターオーガニックプラントを運営し、優良たい肥『郷の有機』を生産と販売いたしております。当JAにおける販売農産物の利用推進し、『郷の有機』を使用によるブランド化を図り、農産物価格の優位販売を実施しております。特に米生産におきましては『郷の有機』特別栽培米に取り組み地域循環型、環境保全型稲作を実践し、消費者に安全・安心でおいしいお米を生産しお届けしています。



2. JAあさひなの概況

JAあさひなは宮城県のほぼ中央部に位置し、黒川郡4町村で構成されております。

総面積が約417km²（水田6,600ha、畑925ha、水稲

作付面積3,628ha）で仙台市に隣接する都市近郊農村地帯であり、近年混住化が加速度的に進行している地域です。

JAあさひなデータ

項目	数量	備考
組合員数	7,498 人	正組合員6,181 准組合員1,317
組合員戸数	5,466 戸	正組合員4,328 准組合員1,138
職員数	258 名	
農産物販売高	4,674 百万円	
米穀	2,928 百万円	平成19年産米出荷契約45万袋
その他穀類	73 百万円	麦, 豆類, そば
園芸	500 百万円	ほうれん草, ねぎ, 白菜,
畜産	1,173 百万円	
たい肥センター職員数	7 名	正職員1名 臨時3名 パート3名
たい肥センター販売高	7,928 万円	

平成20年3月末現在

3. JAあさひな発酵たい肥『郷の有機』 の特徴（商標登録4879837号）

あさひな管内の和牛飼養農家から出る牛ふんをベースに、新鮮な野菜くず（当センター脱水処理）・米ぬか・木炭・海藻残渣類・かに殻を混合し、加圧混練機による1次処理後、ローターリー式攪拌移送機の直線型発酵槽で2次処理をおこないます。

搬出された半製品たい肥は養生槽に堆積し、ローダーによる切り返しを実施しながら製品としての熟成処理をおこないます。

郷の有機製造現場



肥育牛の堆肥の他に投入する食物残渣（産業廃棄物）レタスとおから



第1次醗酵槽



堆肥と残渣混合機



混合機排出状態



養生槽

水田施用により水稻の冷害軽減効果とともに、低タンパクで品質の評価の高い良質米生産につながる事が、JAの栽培実証試験と出荷時の食味計検査により立証されております。

4. JAあさひな『郷の有機』特別栽培米の特徴

郷の有機散布による土壌改良に根幹を置き、天候に強い丈夫な稲作りとともに、生産量に応じた適正施肥を行い、食味に影響を及ぼすタンパク含量を低めに着目した技術です。



2次醗酵槽からの搬出



2次醗酵槽での攪拌



郷の有機簡易貯蔵施設 1

- ① 増収のために施す穂肥（穂ばらみ期の追肥）の抑制と実肥の禁止
- ② 基肥＋有効分けつ期までの追肥による有効茎数・穂数の確保と登熟歩合の向上
- ③ 病害虫の広域共同防除システム（ラジコンヘリコプター・地域一斉防除）による省力化並びに減農薬の推進。
- ④ 水分15%・整粒歩合80%・食味値75（ケット）の基準目標の設定

以上があさひなの郷の有機米のブランドを支えています。

生産者におきましては、全農みやぎJA米規格の米栽培履歴簿提出はもちろんのこと『郷の有機』特別培玄米栽培基準（別紙1）に基づき生産された玄米は、全農みやぎ農産物認証・表示制度の『減農薬・減化学肥料』認証シールと、『郷の有機』独自認証シール（商標登録第4865430号）を添付して、低温倉庫区分保管し出荷します。



5. 栽培基準

平成20年用JAあさひな「郷の有機」特別栽培玄米 栽培基準

- ◎「郷の有機」施用 「郷の有機」を500kg/10a以上施用する。
連年施用や土壌条件により調整が必要な場合は基肥で加減する。
 - ◎種 粉 の 準 備 すべて購入種子とする。(JA米のみ特栽培になります)
 - ◎種 子 消 毒 温湯消毒法 (60℃ : 10分浸漬) を実施する。(農薬カウントはありません。)
 - ◎育 苗
 - ・育苗土…育苗培土または山土 (PH調製) を使用
 - ・育苗様式…出芽後、湛水条件となるプール育苗が望ましい。
 - ・病虫害防除…育苗期間 (出芽後) の立枯病予防に、タチガレン粉剤か液剤 (1成分) (どちらか1回) を使用する。
 - ◎土 づ く り 必要に応じて、元気田みやぎ (40~60kg/10a) 又は混合りん肥 (120kg/10a) を散布する。
 - ◎基 肥 あさひな特別栽培専用肥料 (10-10-10) 又はフレーバーペースト (8-4-6) を使用する。
 - ◎追 肥 あさひな特別栽培専用肥料 (10-10-10) 又は有機アグレット (6-6-6) を使用する。
生育状況により必要ない場合は、施用しない。
- ※品種別施肥基準表 (基準量を上限とする。) (10a 当り)

品 種	施 肥 基 準 (現物量)					
	基 肥		追 肥		補い用・追肥用	
ひとめぼれ	あさひな特別栽培専用肥料	40kg	あさひな特別栽培専用肥料	20kg	有機アグレット	有機態 100%上限なし
	フレーバーペースト	50kg				
ササニシキ コシヒカリ	あさひな特別栽培専用肥料	40kg	あさひな特別栽培専用肥料	10kg		
	フレーバーペースト	50kg				

※ 追肥は化成肥料より10日早めを目安に!

◎ひとめぼれ：幼穂形成期の10日前 (10kg/10a) と減数分裂期の10日前 (10kg/10a)

◎ササニシキ・コシヒカリ：減数分裂期の10日前 (10kg/10a)

- ◎田 植 移植時、葉いもち・害虫防除に Dr.オリゼスタークル箱粒剤 (2成分) (50g/箱当) を散布する。
- ◎除 草 剤 散 布 除草効果を高めるため、散布時及び散布後は十分な水深を保つ。

初中期一発剤	剤 型	散布適期	使用時期	使用量(10a 当り)	成分数
クサトリーDX	フロアブルH	代播後 10日以内	田植直後~15日	500ml(1本)	3成分
	1キロ粒剤75		田植直後~15日	1kg(1袋)	
	ジャンボH		田植後3~15日	400g(1袋)	

【抵抗性雑草 (ホタルイ等) の多発圃場では、早めの散布が効果的です。】

※除草剤の使用回数は、一回のため適期散布 (代播後10日以内) を厳守する。

- ◎中 干 し 6月下旬に目標茎数が十分に確保できたら、強めの中干しを実施する。

◎病虫害防除（多発が予想される場合は、別途協議する。）

○穂いもち・・・薬剤による防除はしない。

畑のカルシウム（カルシウム剤）や珪酸質肥料を施用し稲体強化に努める。

○カメムシ類・・・出穂10日前までに、畦畔の草刈を終了する。

薬剤による防除はスタークル剤（粉剤・H粒剤・液剤）（1成分）を1回のみ。

※カメムシ防除時期：穂揃期～乳熟期に1回

6. 圃場での撒布状況 撒布専用機3台所有





郷の有機特別栽培玄米散布実績・集荷実績

項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	19年産米	平成20年度産米用散布実績
郷の有機散布面積	90	190	230	279	375
郷の有機米買入数量(特別栽培玄米)	7,178	21,735	24,291	37,106	

(単位：ha, 30kg袋)

7、栽培への取り組み

- ① モデル実証展示圃の設置と実証結果の検討及び浸透
- ② ほ場までの運搬・散布サービスの組み合わせによる利用者負担の軽減と料金助成

- ③ 生産者組織「JAあさひな郷の有機特別栽培米推進協議会」の設立による意識統一及び効率的普及推進

参加事業名

- ・飼料増産受託システム確立対策事業

(平成16年度～平成18年度)



モデル圃場と現地検討会



収穫前の圃場と刈り取り作業

- ・畜産環境特別対策事業のうち資源循環型畜産モデル等確立普及対策事業（モデル確立対策）
（平成17年度～平成19年度）
- ・JA全農 環境保全型・畜産有機堆肥利用促進モデル事業

JAあさひな郷の有機特別栽培米推進協議会
出荷後検討会

収穫終了後に各自の郷の有機特別栽培米のサン

プルを分析し、食味分析結果を全員に通知表としてくばります。食味ランク判断基準は蛋白(%)・水分(%)・アミロース(%)・脂肪酸(mg)を測定し、生産された玄米の品質を総合評価して会員全員に配り品質の統一を図り、次年度生産に向けた指標といたしますとともに、栽培基準作成の検討材料と致します。



集荷状況



郷の有機特別栽培米協議会研修会検討会



郷の有機米の販売状況



地元デパートにおける拡販試食会と
全国量販店における贈答品パッケージ

8. 今後の取組みについて

現在宮城県では特別栽培米を、平成22年産米で耕作面積の80%を目標にして努力しております、当JAあさひなでは郷の有機特別栽培米の生産面積を500ヘクタール実現を当面の目標として努力しております、又

産直野菜については郷の有機使用した野菜を区別ブランド化し専用シールを添付し販売し好評いただいております。

今後は消費者と販売者に喜ばれ選択いただく農産物を、郷の有機を使用し生産いたしたく努力してまいります。

